

嘘つきが育つ(家庭)環境

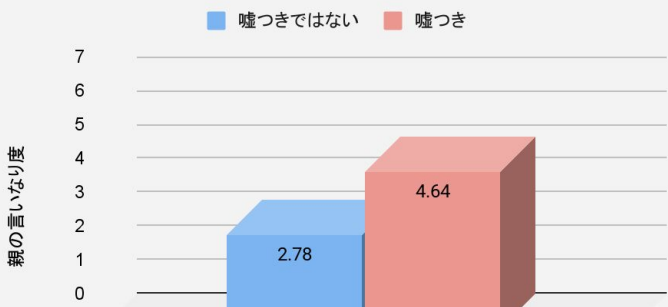
宮城県仙台第三高等学校 普通科ー18班

1背景と目的

自分をよく見せるため、誰かを守るため、利益を得るためなど、嘘を付く原因は様々であるが、中には幼い頃に親に対して「いい子」を振る舞っていたために自然と嘘を付くようになってしまった子どもがいる。私たちは、このような子どもが育ってしまう環境について探究し、そのような環境になっている家庭に向けて提案することで、本来の自分を表現し、のびのびと成長できる子どもを増やすことを目的としている。

2先行研究

嘘を付く人と騙される人のパーソナリティに関する研究をもとに作成



2)嘘をつく人と騙される人のパーソナリティに関する研究

「嘘つきであるか」「親の言いなりだった」という2つの質問についてT検定を行った。

結果:有意差(偶然ではなく統計的に意味のある差)が認められた。→嘘つきな人は親の言いなりだったことが多い。

3)嘘の発生とその展開

3.子どもの嘘の変貌

まわりの大人に対して嘘や隠し事が多い子どもには、次に示す2つのパターンが認められる。第1は、親の構いすぎで、自立を妨げられるために嘘をつかざるをえない子どもである。第2は、親や大人からの保護が少ないために...

大人は子どもが秘密の世界を持つことを認めて、子どもが嘘をつかざるをえない状況まで追い込まないようにすべきである。

仮説

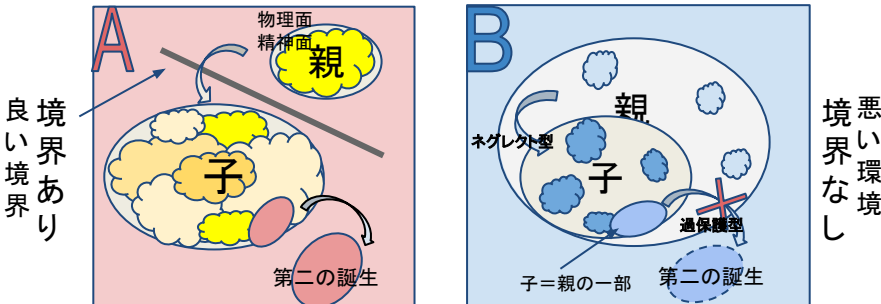
親の過度な干渉→嘘つき(?)

3結果・考察

香川克先生(京都文教大学臨床心理学部教授)のお話

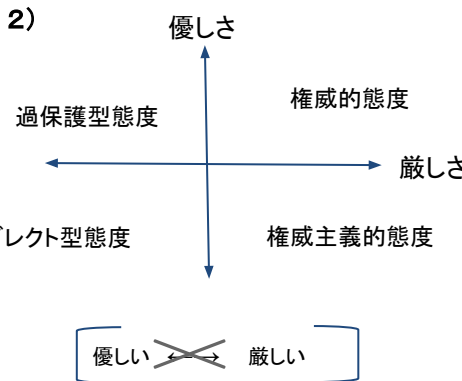
1) 結果 影響

過干渉 < 無干渉



※第二の誕生:ここでは自立を意味する

⚠ 同じ親にもA面とB面があり、ある家族はA(B)であると二分化されるものではない。



仮アンケートの作成

参考文献5に記載の家庭環境に関するアンケート(一部消去)と自己作成の嘘に関するアンケートを用いる。

家庭環境:
1～5の5段階評価
(優しさ×7, 厳しさ×6)

嘘:親の質問に対して嘘をつくことがあるか
1～5の5段階評価

家庭環境に対するアンケート (参考文献5より)

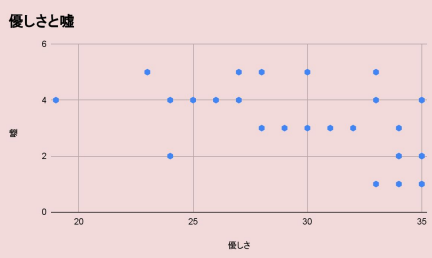
- 意見が異なったときは、私の意見に耳を傾け、話してくれていた。
- 私が困ったときや悩んだときは、相談にのってくれていた。
- 私が迷っている時は、考えがまとまるまで待ってくれていた。
- 一人の人間として、私と対等に接してくれていた。
- 私と日常の社会現象や娯楽などの話題で話していた。
- 一緒に(買い物, 食事, 見学・観戦, 散歩など)出かけてくれていた。
- 私が失敗などをしたときは、なぐさめたり、励ましたりしてくれていた。

優しさ
(応答性)

- 家族でのルール(家事の役割分担, 帰宅時間など)を、私に守らせていた。
- 社会の規範(道徳観, お金のルールなど)を、私に守らせていた。
- 礼儀作法(目上の人への挨拶, 言葉づかい)を教えていた。
- あいさつなどを含めた基本的な生活習慣を守らせていた。
- 私の間違った言動や行動には、厳しく注意していた。
- しつけについては、毅然とした態度で、私に接していた。

厳しさ
(要求性)

仙台三高3年7組に対して限定実施(回答者31名の内、完答者29名)



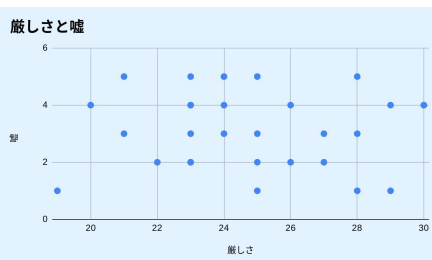
優しさと嘘

相関係数:-0.5146483879(中程度の相関)
→「優しさ」の値が低いほど嘘をつきやすい

厳しさと嘘

相関係数: 0.03501165634(ほぼ相関なし)

⚠ 標本数が少ないため信頼度は低い



わかったこと

- ・厳しさは嘘のつきやすさにおいてほとんど関係がみられなかった。
- ・優しさが少ないほど嘘をつきやすい
- ・
- ・

宮城第一高校探究成果発表会 (3/18)

一高生だけでなく先生や講師の方からも貴重な意見や感想が得られた。応援や称賛の言葉も数多く寄せられ、この探究を最後までやり遂げたいと改めて思える経験だった。

4まとめ・結論

香川克先生によると、こどもの健康的な成長に大切なのは親子の間に適度な境界を作ることだという。この境界は親だけでなく、子どもの努力によって作ることが可能であり、自分の生まれた環境に諦め受け入れるままにならないことが必要である。また、私達のアンケートの結果「無干渉」の中でも優しさにおける欠如がより大きく子どもに影響している可能性が指摘された。しかし、アンケートの質問事項の客観性や標本数において疑うべき点は多くあることは確かであり、より正確なアンケートによる調査が必要だ。

5感想

アンケートの実施において、考慮すべき要素がたくさんあり、相関性などを簡単に言い切れないところが苦戦したところであったが、修学旅行やアンケートで過干渉か否かの二項対立だけが嘘に影響しているわけではないという発見が大きかったと思う。

参考文献

- 1) 虚言癖に関連する病気と直し方,接し方を公認心理師が解説,ダイコミュの病気の治し方(2024) 心の病気と治し方. Available at: <https://www.direct-commu.com/mental-illness/lies/> (Accessed: 14 August 2024).
- 2) 嘘をつく人と騙される人のパーソナリティに関する研究(2009) Available at: https://adm.osaka-shinai.ac.jp/upload/library_bulletin/file/43/adachi_compressed.pdf (Accessed: 10 October 2024).
- 3) 嘘の発生とその展開(2014) Available at: <https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/record/772/files/KJ00000560896.pdf> (Accessed: 31 October 2024)
- 4) 親の養育態度と子どもの行動傾向に関する基礎研究(2021) Available at: <https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/978> (Accessed: 29 December 2024)
- 5) 父親・母親の養育スタイルに関する大学生の回想とアイデンティティ形成(2018) Available at: <https://doi.org/10.4992/jpsy.89.16071> (Accessed: 29 December 2024)